第２次北はりま定住自立圏共生ビジョン

第１～第２（案）

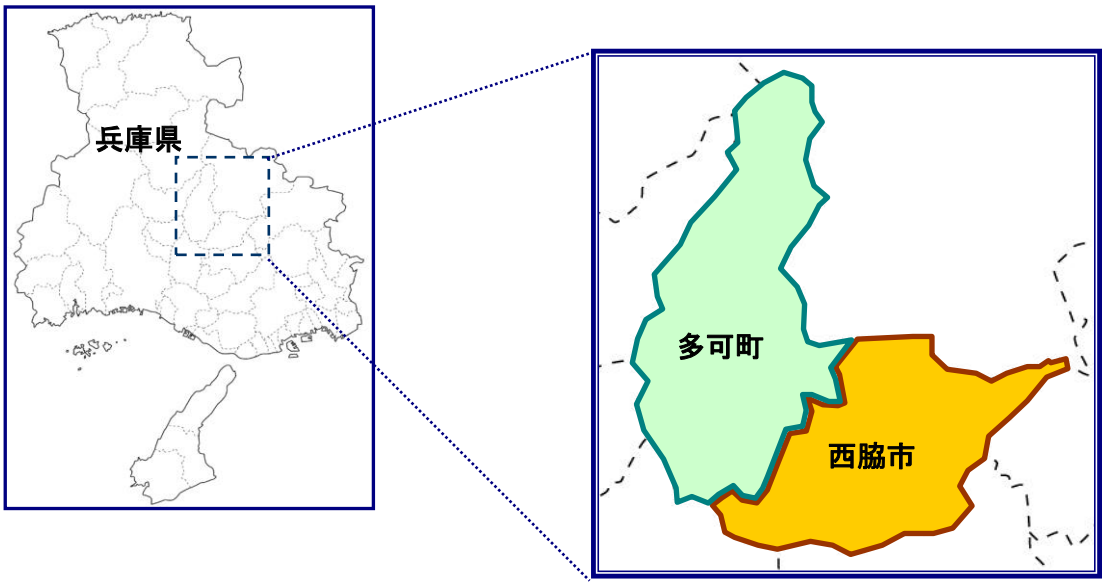
第1　共生ビジョンの概要

1　定住自立圏の名称

北はりま定住自立圏

2　定住自立圏の構成市町

西脇市、多可町



3　共生ビジョンの目的・役割

定住自立圏構想は、自治体の枠組みを越えて生活に必要な都市機能を擁する中心市とその近隣市町村（連携市町村）で形成される定住自立圏において、「集約とネットワーク」の考え方に基づき、中心市と近隣市町村（連携市町村）が相互に連携と協力し、圏域全体の活性化を図ろうとするものです。

本ビジョンは、安心・快適に暮らせる定住自立圏の形成に向け、中・長期的な視点から北はりま定住自立圏が目指す将来像を定めるとともに、将来像を実現するために必要な具体的な取組を示すものです。

4　共生ビジョンの期間

本ビジョンで示す将来像の実現に向けた具体的な取組の計画期間は、平成28年度から平成32年度までの５年間とします。

なお、毎年度所要の変更を行うものとします。

第２　圏域の現況

１　広域連携の取組経緯

兵庫県のほぼ中央部に位置する西脇市と多可町の区域は、８世紀に編さんされた「播磨国風土記」において託賀郡（たかのこおり）と記されており、両市町の大部分は多可郡として地理的・歴史的に深いつながりを持ちながら発展してきました。国内有数の先染綿織物である播州織の産地として飛躍的に発展を遂げた大正期以降は、交通の発展とともに経済的なつながりも深まり、一体的な生活圏を形成するようになってきました。

戦後の市町村合併で旧西脇市と多可郡４町が成立し、昭和45（1970）年には北播磨地域の他市町とともに、国の広域市町村圏構想に基づき播磨内陸広域行政協議会を設立し、広域行政に取り組んできました。

また、旧西脇市と多可郡４町では、昭和55（1980）年に西脇市多可郡消防事務組合を設置し、消防・救急業務を共同で処理してきました。その後農業共済事務の共同処理に伴い、平成元（1989）年に同組合を西脇多可行政事務組合に改称し、以降介護・障害認定審査業務、斎場業務など行政事務の広域化を推進してきました。また、ごみ処理についても北播磨清掃事務組合を関係市町とともに設置し、広域的に取り組んできました。

両市町では、こうした一部事務組合での行政事務の共同処理のほかにも、都市との交流の促進による地域活性化を目的に、平成６（1994）年には「北はりまハイランド構想」を策定するなど圏域の総合的な発展に向けた政策の推進に共同で取り組んでいます。さらに行政以外の活動においても、経済・文化などさまざまな場面での住民活動が連携して行われており、西脇市・多可郡は一体的な生活圏であることが伺えます。

全国的な「平成の大合併」の潮流の中、住民からは旧西脇市と多可郡４町を枠組みとした市町合併の動きがみられましたが、最終的には協議が整わず、平成17（2005）年度には西脇市と多可町の２つの枠組みに分かれて合併することとなりました。合併後も自治体の枠組みを越えた地域課題や広域的な行政需要に対応するため、両市町での連携を推進しており、その一環として定住自立圏構想に取り組んでいます。

2　圏域の構成市町の概況

（１）　構成市町の地勢・沿革

①　西脇市

西脇市は、平成17（2005）年10月に旧西脇市と多可郡黒田庄町が合併して誕生しました。東経 135度と北緯35度が交差する日本列島の中心ー「日本のへそ」に位置しており、人口42,377人（平成27（2015）年４月１日現在）、面積132.44k㎡の都市です。

地形的には、標高 200～ 600mの山地や丘陵に囲まれ、中央部を県内最長の加古川が貫流し、市域南部で杉原川・野間川と合流し、これらの河川沿いの平野部に集落や農地が形成されています。

明治期以降、豊かな水資源を利用し、家内工業であった綿織物が工場生産の播州織として発展し、昭和初期には急速に市街地が形成され、北播磨地域の商都としても繁栄しました。こうした地場産業の興隆を背景に、昭和27（1952）年には西脇町ほか３村が合併し、県内内陸部では最初の市となる西脇市が誕生しました。以来北播磨北部地域の行政・経済・住民生活の中核都市として発展を遂げてきました。

②　多可町

多可町は、平成17（2005）年11月に多可郡中町・加美町・八千代町が合併して誕生しました。兵庫県のほぼ中央部、北播磨地域の最北に位置しており、人口22,247人（平成27（2015）年４月１日現在）、面積185.19k㎡のまちです。旧町単位で、中区・加美区・八千代区の３つの地域自治区が設置されています。

地形的には、千ヶ峰を最高峰とする中国山地の東南端の山々に囲まれ、三国岳を源とする杉原川が加美区・中区を貫流し、笠形山を源とする野間川が八千代区を貫流しています。中山間地域のため平地が少なく、全体面積の約８割を山林が占め、宅地と田畑の面積は、あわせて１割程度となっています。

播州織の興隆に伴い、西脇市と一体的な経済圏を形成するとともに、酒造好適米の山田錦の発祥地としても知られ、稲作を中心とした農業生産にも取り組んでいます。

※H27国勢調査速報値を記載する予定

（２）　人口・世帯数

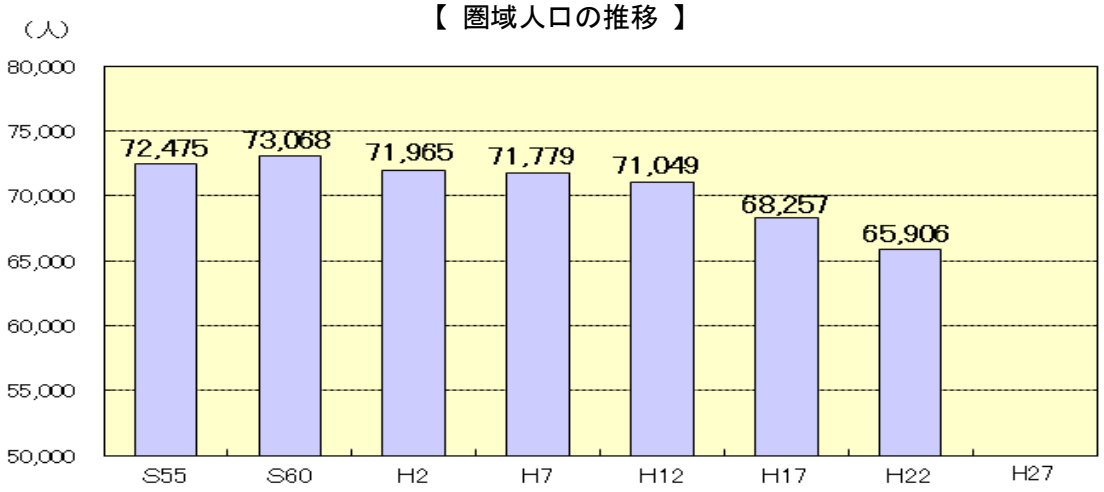
①　人口

圏域の人口は、昭和35（1960）年の79,835人をピークにその後は７万２千人前後で横ばいに推移していましたが、平成17（2005）年には68,257人と７万人を割り込み、平成22（2010）年にはさらに減少し、65,906人となっています。

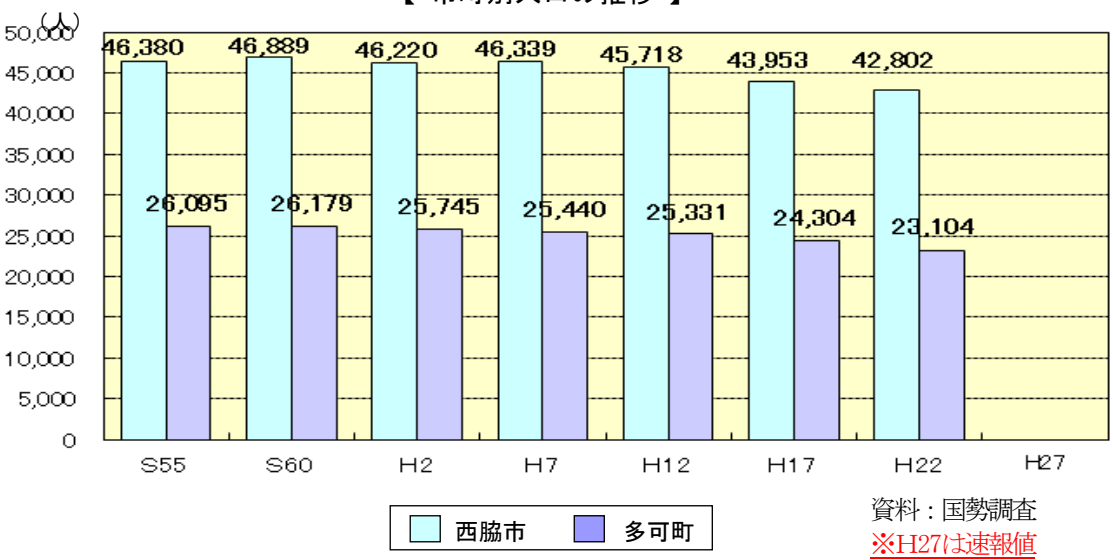
市町別の推移では、西脇市は平成７（1995）年までは４万６千人台で推移していましたが、以降は減少傾向に転じ、平成22年では42,802人となっています。多可町は昭和60（1985）年から緩やかに減少していましたが、平成12（2000）年以降は減少率が大きくなっており、平成22年では23,104人となっています。

わが国全体の人口が減少する中、本圏域においては自然増減（出生数－死亡数）、社会増減（転入者数－転出者数）ともにマイナスとなっており、平成17年（2005）年以降の減少率は大きく、今後も減少傾向が続くことが予測されます。

【 圏域人口の推移 】



【 市町別人口の推移 】

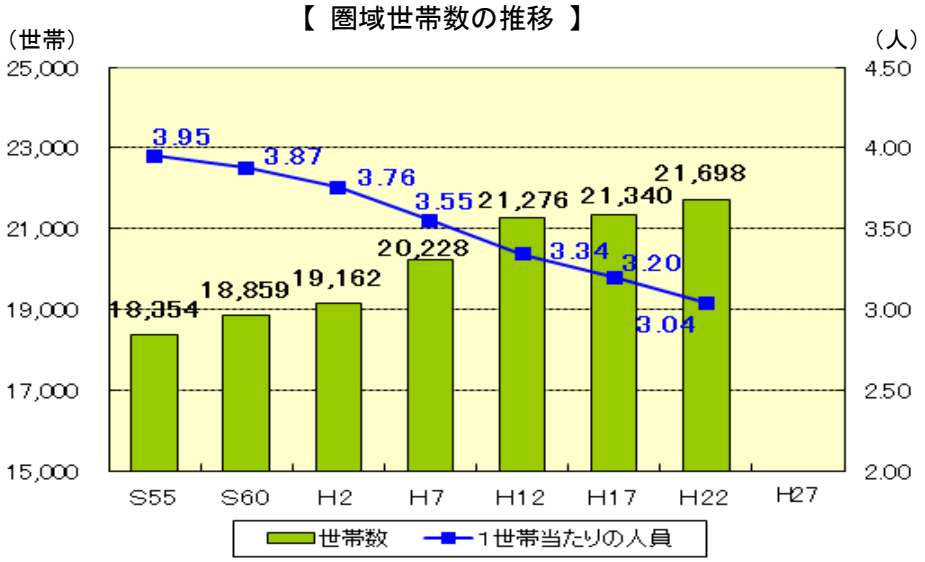


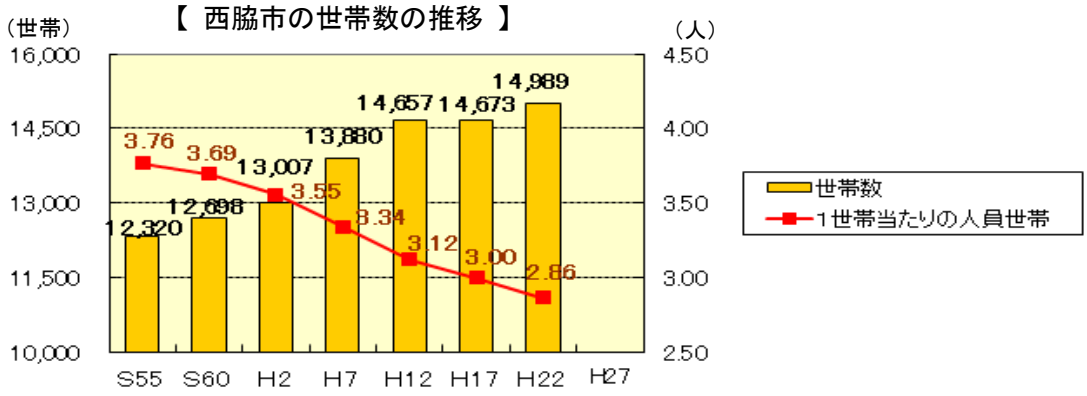
資料：国勢調査
※H27は速報値

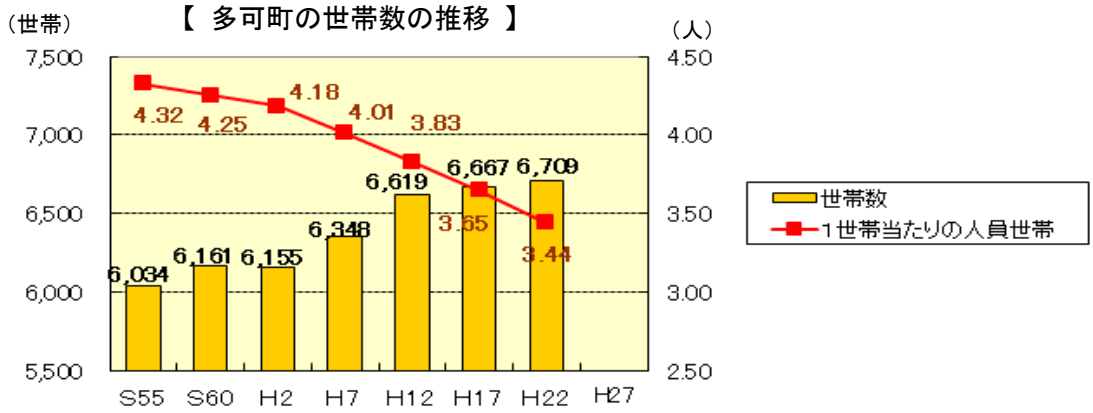
② 世帯

※H27国勢調査速報値を記載する予定

圏域の世帯数は、人口が減少に転じている中、一貫して増加しています。人口の減少とともに世帯数の伸びも鈍化していますが、平成22（2010）年には21,698世帯となっています。　また、１世帯当たりの人員は、一貫して減少しており、西脇市が2.86人、多可町が3.44人となっています。核家族や単身の世帯が増加していることが伺えます。







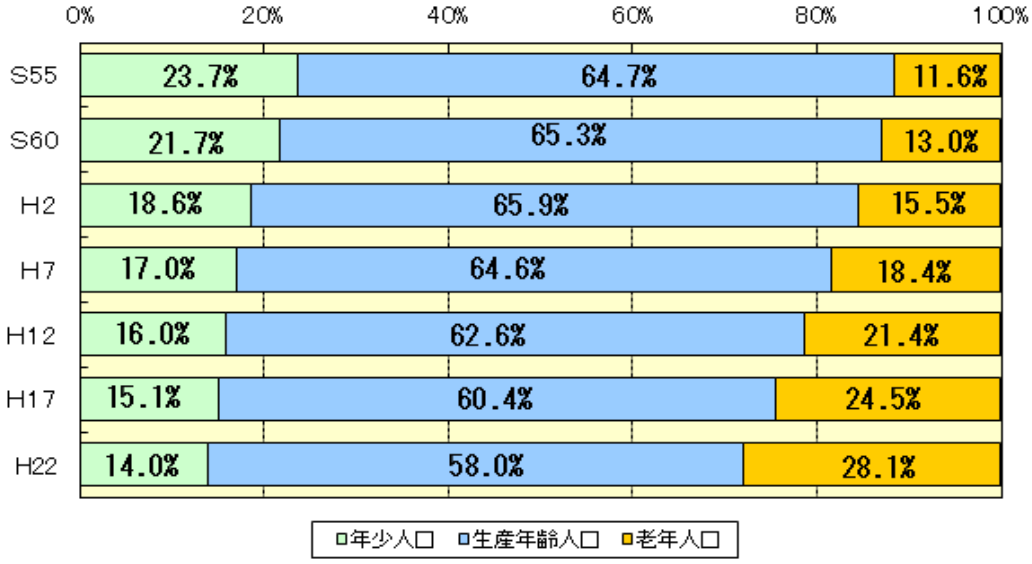
資料：国勢調査
※H27は速報値

③　年齢３区分別人口

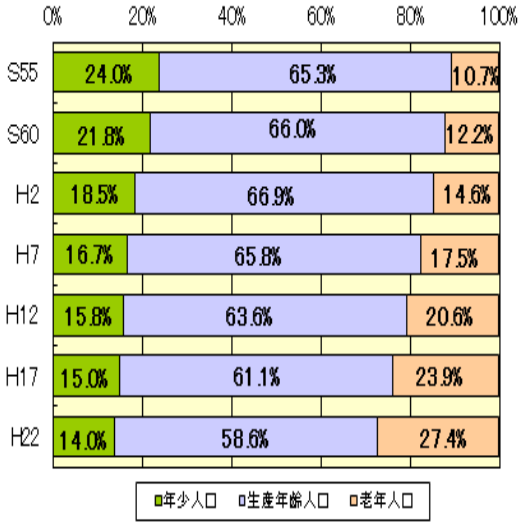
圏域の年齢３区分別人口は、全国的な傾向と同様に15歳以下の年少人口の割合が減る中、65歳以上の老年人口の割合が増加しています。平成７（1995）年に老年人口が年少人口を上回り、以降その差は拡大を続けています。また、15歳以上65歳未満の生産年齢人口の割合も団塊の世代の高齢化に伴い、徐々に減少し、平成22（2010）年には38,195人となっています。

昭和55（1980）年には 8,404人であった老年人口は、平成22（2010）年には18,485人となり、 3.5人に１人が65歳以上となっています。本圏域は、全国・兵庫県平均を上回る高齢化率となっており、今後もさらに少子高齢化が進行することが予測されます。

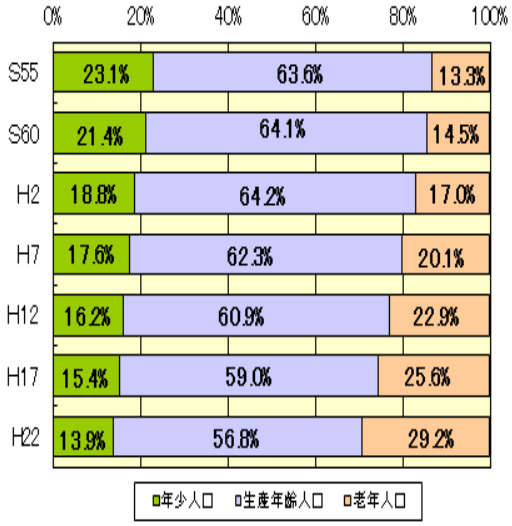
【 圏域の年齢３区分人口の推移 】



【 西脇市の年齢３区分人口の推移 】



【 多可町の年齢３区分人口の推移 】



資料：国勢調査

④　昼間人口・流出入人口

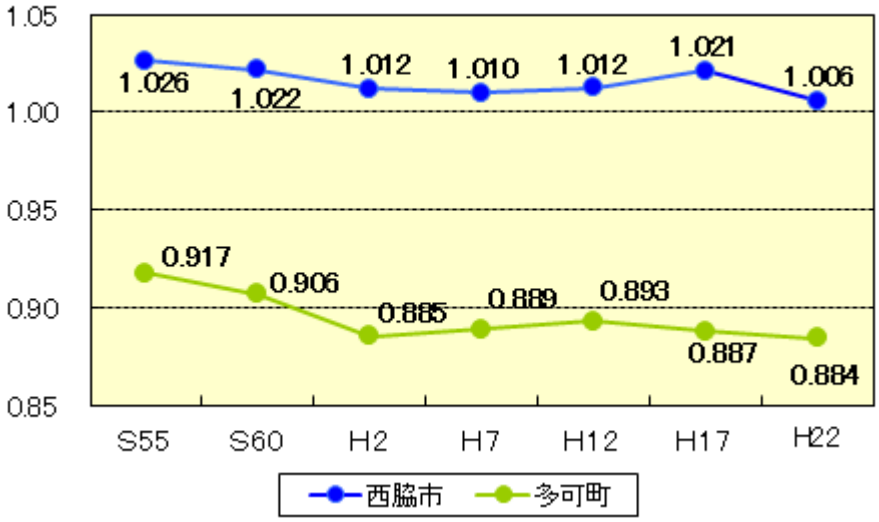
中心市の要件を備える西脇市は、播州織の発展に伴い工場や商店などが集積し、３つの高等学校が所在することから、常住人口よりも昼間人口が上回っています。

平成22（2010）年では、常住人口42,802人に対し、昼間人口は43,042人と 240人の流入超過となっており、昼夜間人口比率は 1.006となっています。

一方、多可町は昼間人口が常住人口を下回っており、平成22年では、常住人口23,104人に対し、昼間人口は20,430人と 2,674人の流出超過となっており、昼夜間人口比率は 0.884となっています

事業所の閉鎖等により、西脇市への流入人口は減少しつつありますが、依然として、西脇市における多可町からの流入人口は多く、多可町における西脇市への流出人口割合は４割を超えています。

【 圏域市町の昼夜間人口比率 】



【 西脇市への流入人口の推移 】

区　　分	昭和60年	平成７年	平成17年	平成22年
流入人口	5,595人	7,541人	8,634人	8,205人
多可町からの流入人口	2,380人	2,595人	2,479人	2,301人
西脇市の流入人口に占める割合	42.5%	34.4%	28.7%	28.0%
多可町の流出人口に占める割合	66.7%	54.5%	39.8%	44.9%

資料：国勢調査

（３）　産業・経済

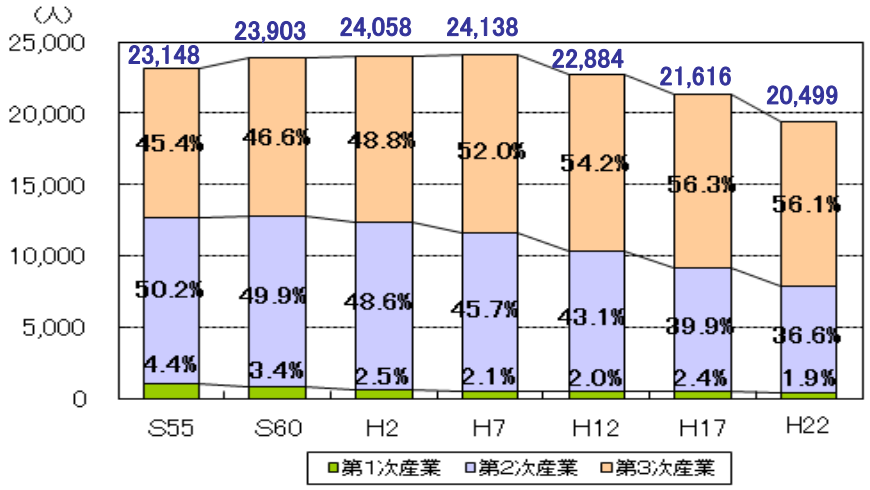
①　産業別就業人口

圏域における居住地の産業別就業人口は、平成22（2010）年では31,465人となっています。織物など地場産業の従事者が多かったことから、本圏域では従来第２次産業への就業者割合が高い傾向がみられましたが、産業構造等の変化により全国的な傾向と同じく、第３次産業の就業者の割合が増加しています。

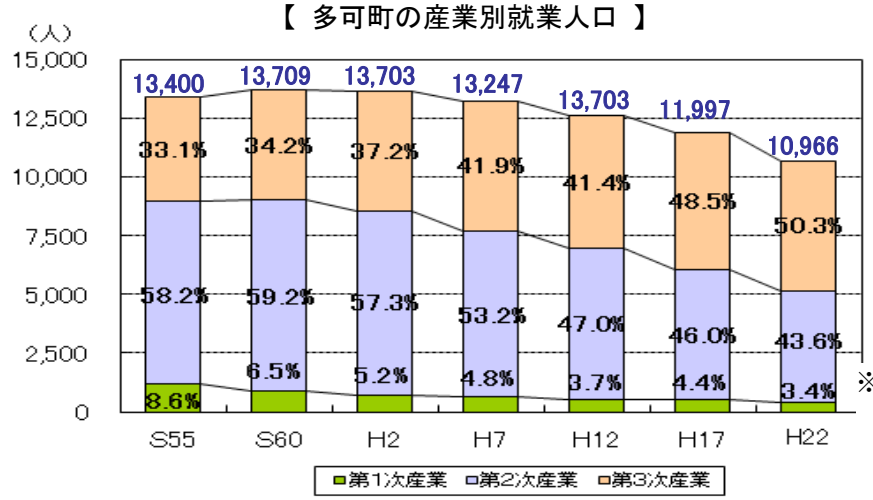
西脇市では、平成２（1990）年に第２次産業と第３次産業の就業者の割合が逆転、平成17（2005）年には第２次産業の就業者は４割を下回り、以降減少傾向にあります。また、少子高齢化の進行に伴い、西脇市の就業者人口も平成７年の24,138人をピークに減少し、平成22（2010）年には20,499人となっています。

多可町では、西脇市と同様第２次産業の就業者の割合が高い傾向にありましたが、平成17年には第３次産業の就業者割合を下回りました。また、就業者人口は昭和60（1985）年をピークに減少し、平成22年には10,966人となっています。

【 西脇市の産業別就業人口 】



【 多可町の産業別就業人口 】



※分類不能の産業を含むため、割合の合計は 100 %とはならない。

資料：国勢調査

② 総生産・所得

圏域の市町総生産額は、平成10（1998）年度が 2,288億 3,700万円と最も高く、平成24（2012）年度には 1,749億5500万円となっています。就業者１人当たりの総生産額は、就業者人口が減少していることから、両市町ともに平成19年度が最も高く、以降減少しています。一方、人口１人当たりの市町民所得は、両市町ともに平成10年度が最も高く、平成24年度では25%以上減少しています。

就業者１人当たりの総生産額、人口１人当たりの市町民所得ともに、兵庫県平均よりも低くなっています。

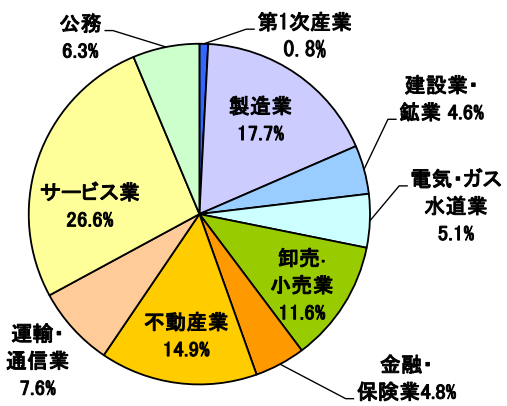
平成24年度の市町内総生産の構成比でみると、西脇市では製造業に代わりサービス業が約３割と最も高くなっており、多可町では引き続き製造業の割合が最も高くなっています。

【 圏域市町の総生産・市町民所得 】

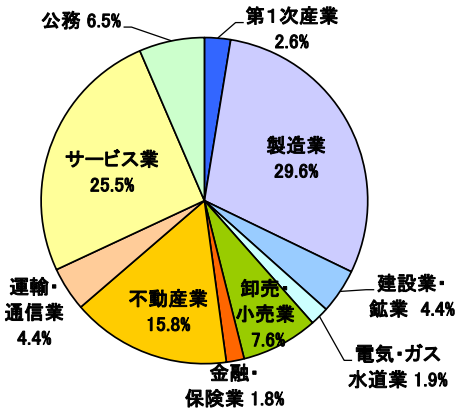
単位：市町総生産 … 百万円、１人当たりの総生産額・市町民所得 … 万円

区分		平成10年度	平成13年度	平成16年度	平成19年度	平成21年度	平成24年度
西脇市	市町総生産	160,870	160,558	153,711	158,902	149,900	122,761
	就業者１人当たりの総生産額	7,033	6,507	6,242	7,053	6,690	6,345
	人口１人当たりの市町民所得（分配）	2,959	2,623	2,376	2,544	2,347	2,196
多可町	市町総生産	67,967	65,172	61,808	59,501	53,525	52,194
	就業者１人当たりの総生産額	6,183	5,949	5,853	6,573	5,592	5,197
	人口１人当たりの市町民所得（分配）	2,896	2,520	2,317	2,345	2,136	2,081

【 西脇市の総生産（名目）の構成比 】



【 多可町の総生産（名目）の構成比 】



資料：（H24）兵庫県市町民経済計算

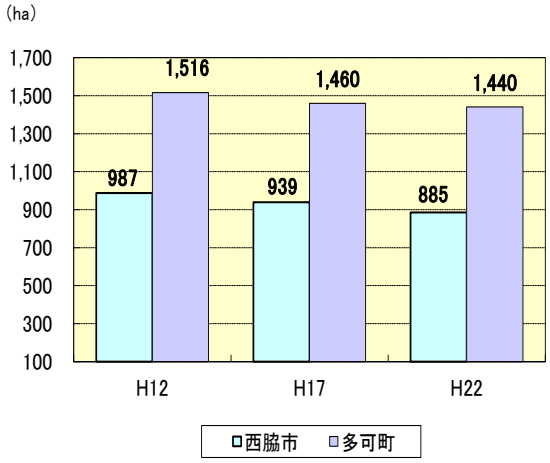
③　第１次産業

圏域における経営耕地面積・農家総数は、ともに減少傾向にあります。

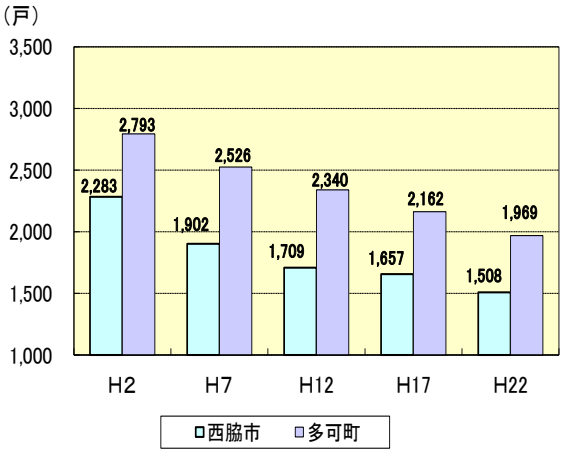
経営耕地面積は、両市町ともに減少し、平成12（2000）年の 2,503haが平成22（2010）年には 2,325haとなっています。

農家総数は、平成２（1990）年と平成22年の比較では、西脇市が34%、多可町が30%減少しています。両市町とも専業農家が極端に少なく、平成22年では西脇市が81戸、多可町が 122戸となっています。

【 圏域市町の経営耕地面積 】



【 圏域市町の農家総数 】



資料：農林業センサス

④　第２次産業

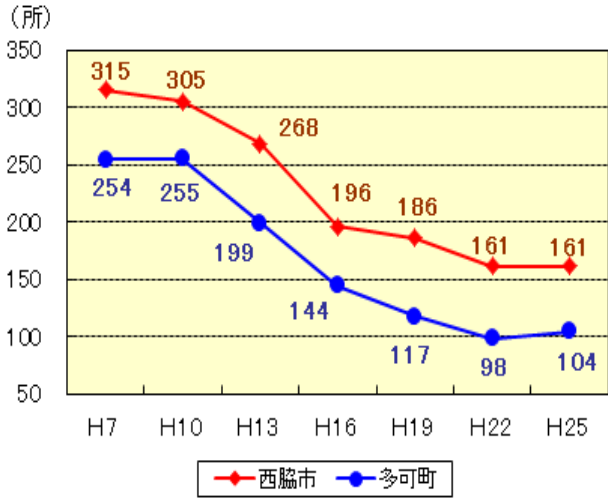
圏域における製造業の事業所数は減少傾向にあります。平成７（1995）年と平成25（2013）年の比較では、西脇市が 315事業所から 161事業所と約半数に減少し、多可町が 254事業所から 104事業所と約６割減少しています。規模別では、大半が従業員30人以下の小規模な事業所となっています。

従業員数については、西脇市では平成19（2007）年に大きく伸びて以降、大幅な減少に転じています。一方、多可町では継続的に減少傾向でしたが、平成25（2013）年に増加に転じています。

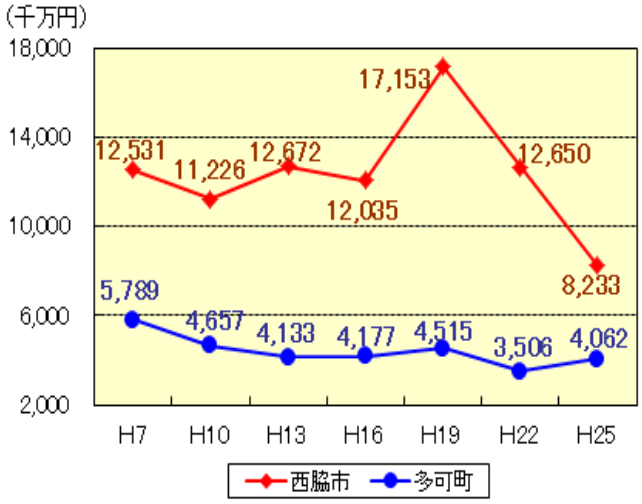
製造品出荷額等については、西脇市では平成19（2007）年に大きく上昇して以降、大幅な下降に転じています。市内に立地する電子部品関係企業の実績が大きく影響していると考えられます。一方、多可町では年により増減はあるものの、減少傾向にあります。

両市町では古くから織物産業が繁栄したことから、繊維工業・繊維製造品関係の事業所数の割合が高くなっていますが、製造品出荷額に占める割合は低くなっています。西脇市における平成25年の状況では、事業所数は全体の約４割を占めているのに対し、製造品出荷額等に占める割合は、全体の２割にとどまっています。

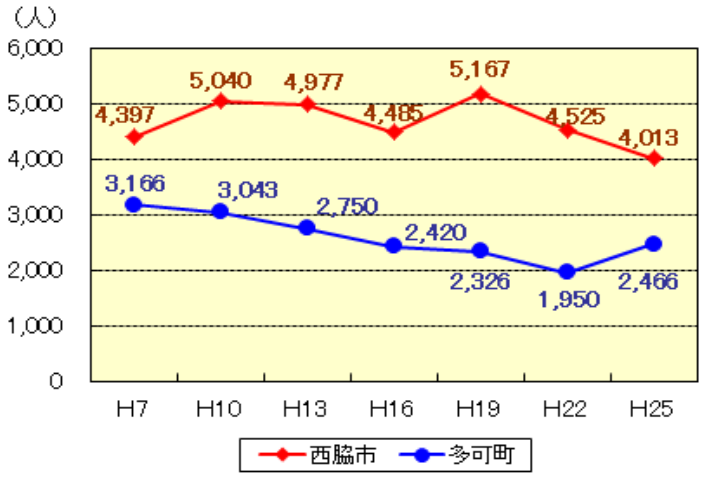
【 圏域市町の製造業事業所数 】



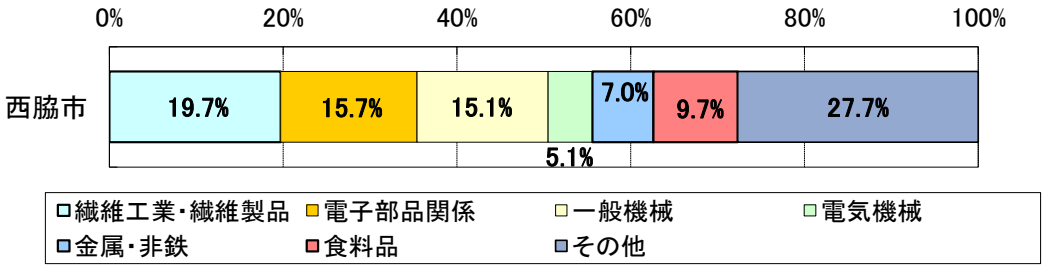
【 圏域市町の製造品出荷額等 】

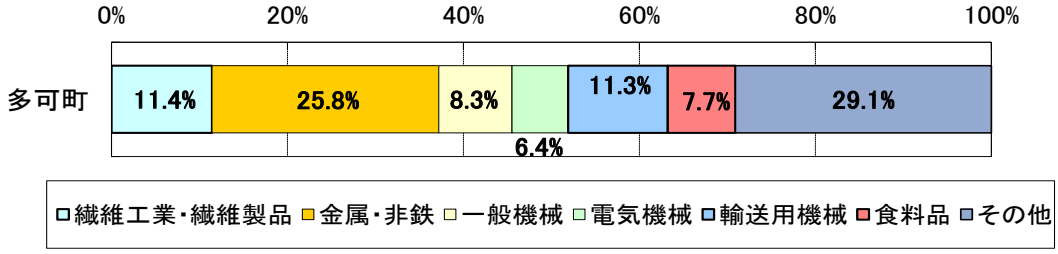


【 圏域市町の製造業従業者数 】



【 圏域市町の製造品出荷額等の産業分類別割合（H25） 】





資料：工業統計調査

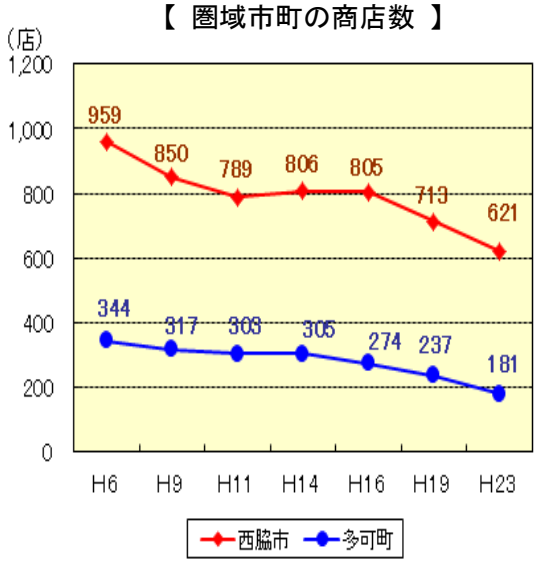
⑤　第３次産業

圏域における商店数は減少傾向にあります。平成６（1994）年と平成23（2011）年の比較では、西脇市が 959店から 621店と約35%、多可町が 344店から 181店と約50%に減少しています。

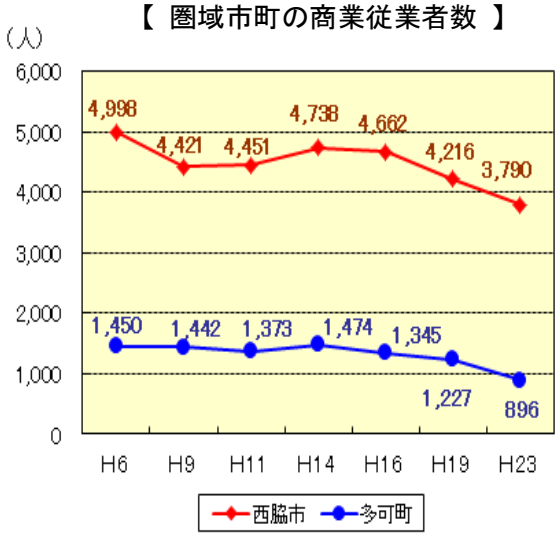
従業者数については、商店数の推移と同様の傾向を示しており、商店数の増加とともに増えた年次もありますが、両市町ともに減少傾向にあります。

年間商品販売額については、平成９（1997）年をピークに減少傾向にあり、特に西脇市での減少が顕著になっています。西脇市は従来北播磨地域における商業都市として機能してきましたが、平成19（2007）年以降の年間商品販売額は1,000億円を割り込む大幅な減少となっています、地域の商業拠点としての機能の低下が懸念されます。

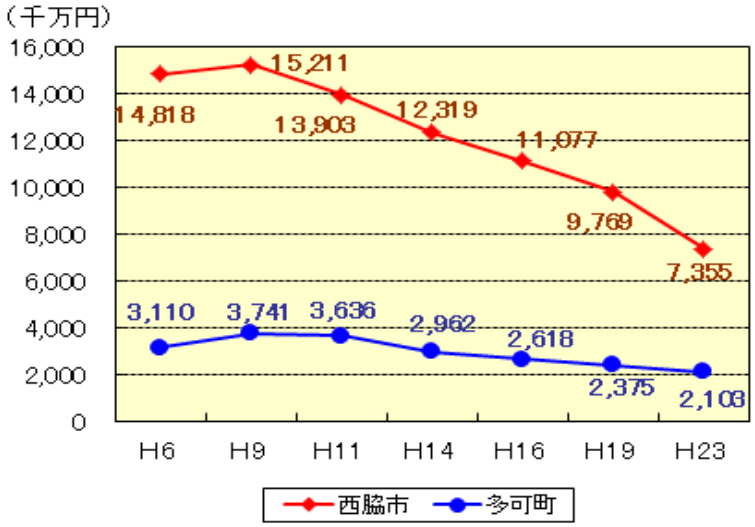
【 圏域市町の商店数 】



【 圏域市町の商業従業者数 】



【 圏域市町の年間商品販売額 】



資料：商業統計表
経済センサス活動調査表

（４）　土地利用

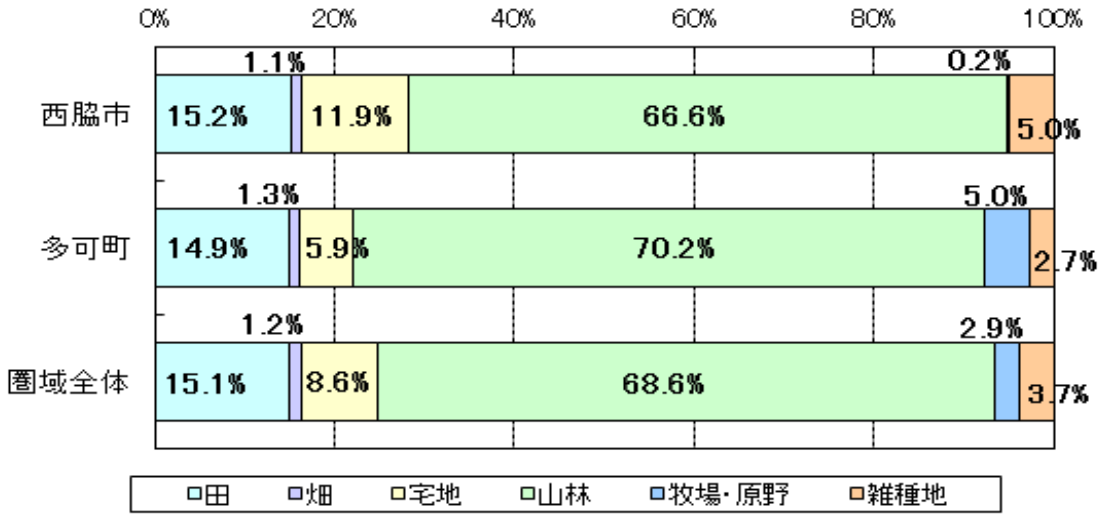
圏域における土地利用（民有地）の状況は、約７割を山林が占めており、自然的土地利用が多くなっています。山林に次いで、田畑が16.3%、宅地が 8.6%となっています。

市町別では、おおむね同じような土地利用の構成となっていますが、宅地については、西脇市が多可町の 5.9%の倍の11.9%、牧場・原野については、西脇の0.2%に対し、多可町が 5.0%と構成比率が高くなっています。

総面積から林野・湖沼面積を差し引いた可住地面積の割合は、西脇市、多可町ともに低く、平坦地が少ないことがわかります。

都市計画区域については、西脇市では合併前の旧西脇市域の大部分が県知事の指定する東播都市計画区域に属しており、市域の59%が該当しています。一方、多可町は、中区（旧中町）の全域が非線引きの都市計画区域となっており、町域の26%が該当しています。

【 圏域市町の土地利用状況（H26） 】



資料：各市町提供資料

（５） 社会基盤・市民生活

① 医療

圏域における医療施設数は、病院４施設、一般診療所48施設、歯科診療所24施設となっています。４箇所の病院が擁する病床数は、あわせて 689床となっており、うち60床が療養病床となっています。平成21（2009）年に全面改築した西脇市立西脇病院が圏域の医療拠点としての役割を担っています。

また、西脇市内の民間病院と多可町の多可赤十字病院では、定住自立圏における生活機能の確保に向けた民間投資を助成する定住自立圏等民間投資交付金を活用し、医療設備の充実を行いました。

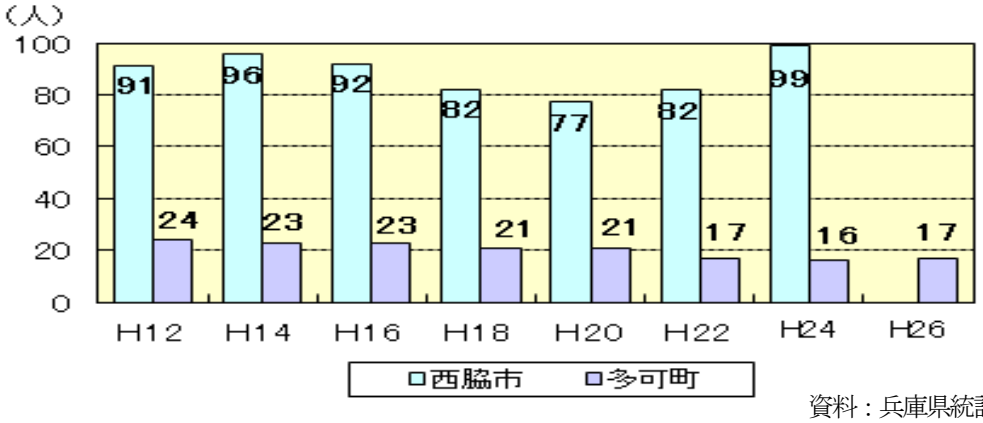
圏域における従業地別の医師数は、新臨床研修医制度の導入等の影響により、平成14（2002）年以降減少していましたが、平成22（2010）年から増加に転じ、平成24（2012）年の医師数は 115名となっています。西脇市立西脇病院の勤務医師数をみてみると、平成20（2008）年に37人であったのが、平成26（2014）年には49人にまで増えています。

西脇市立西脇病院では、入院患者数については平成14年をピークに減少傾向でしたが、平成23（2011）年に増加に転じています。また、外来患者数については、かかりつけ医制度の普及などにより年々減少していましたが、平成25（2013）年に増加に転じています。また、入院・外来患者ともに西脇市民の占める割合が減少傾向にありますが、多可町民の割合はほぼ一定で推移しています。

【 圏域市町の医療施設数（H25） 】

	病院数	病床数	診療所数	歯科診療所数
西 脇 市	2	519	35	16
多 可 町	2	170	13	8
合　　計	4	689	48	24

【 圏域市町の医師数の推移 】



資料：兵庫県統計書

※H26 追記します

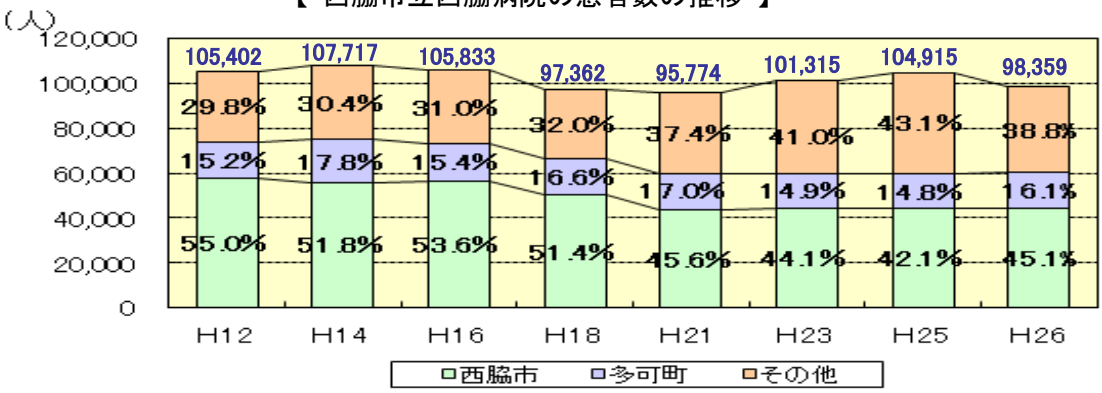
【 圏域市町の病院の概要（H26） 】

名　　称	病床数	診療科数	診療科名	備　考
西脇市立西脇病院	３２０	２３	内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科	救急指定病院 北播磨災害拠点病院 へき地医療拠点病院 臓器提供施設指定病院 臨床研修指定病院 地域がん診療連携拠点病院 エイズ診療協力病院 周産期医療協力病院 地域医療支援病院
医療法人社団正峰会 大山病院	１９９	１８	内科、消化器内科、循環器内科、人工透析内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、肛門外科、皮膚科、泌尿器科、乳腺科、婦人科、麻酔科、リハビリテーション科、眼科、病理診断科	救急指定病院 臨床研修指定病院
多可赤十字病院	１１０	１１	内科、外科、整形外科、脳神経外科、婦人科、小児科、皮膚科、精神科、眼科、放射線科、リハビリテーション科	救急指定病院 臨床研修指定病院
社会福祉法人養徳会 医療福祉センターのぎく	６０	４	内科、小児科、神経内科、リハビリテーション科	療養病床６０床

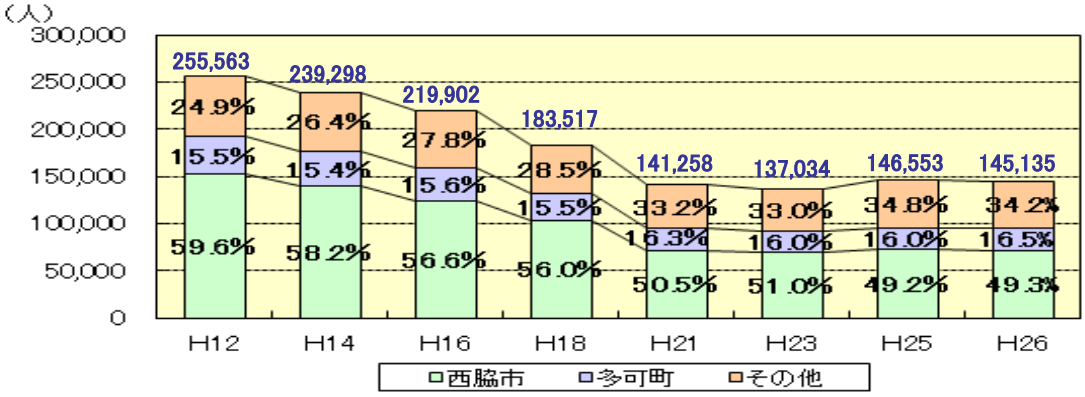
資料：ホームページより作成

≪入院≫

【 西脇市立西脇病院の患者数の推移 】



≪外来≫



資料：西脇病院資料

② 福祉

圏域における福祉施設数は、児童福祉関係では保育所（認定こども園含む。）14箇所などあわせて19施設、高齢者福祉関係では特別養護老人ホームが10箇所などあわせて62施設、障害者福祉関係では障害福祉サービス事業所29施設が整備されています。

保育所（認定こども園を含む。）については、入所者数が総定員数を下回っており、定員に余裕がありますが、高齢者の急激な増加を受け、特別養護老人ホームの定員数に対する入所希望者数は大幅に超過しています。

【 圏域市町の福祉施設の状況（H27） 】

区　　分	施設の種類	西脇市	多可町	合　計
児童福祉	障害児入所施設	－	2	2
	児童館	－	2	2
	助産施設	1	－	1
	認定こども園	1	－	1
	保育所	7	6	13
高齢者福祉	軽費老人ホーム	2	2	4
	有料老人ホーム	4	－	4
	特別養護老人ホーム	4	6	10
	介護老人保健施設	1	1	2
	通所介護事業所	18	8	26
	療養通所介護事業所	1	－	1
	通所リハビリ事業所	5	2	7
	在宅介護支援センター	5	3	8
障害者福祉	障害福祉サービス事業所	11	18	29

資料：北播磨県民局ホームページを参考に作成

③ 道路

圏域を走る広域道路網としては、国道 175号や国道 427号などがあります。

道路の整備状況では、国道の舗装率は 100%となっており、県道や市町道の舗装率も高くなっています。

主な道路の自動車交通量の平成17（2005）年から平成22（2010）年までの推移では、国道 175号で53.0%、国道 427号で 6.7%の減少がみられます。一方、両市町を結ぶ国道 427号（曽我井地点）、地方道多可北条線では交通量の増加がみられます。

【 圏域市町の道路の状況（H26） 】

種　　別		西脇市	多可町	合　計
国　道	実延長	21.61km	28.16km	49.77km
	舗装率	100%	100%	－
県　道	実延長	73.11km	66.88km	139.99km
	舗装率	100%	97.0%	－
市町道	実延長	411.26km	511.61km	922.87km
	舗装率	96.1%	85.5%	－

資料：兵庫県統計書

【 圏域市町の主な道路交通量の状況（平日 24 時間通行車両台数） 】

路線名	調査地点	H17	H22	増減率
国道 175号	(H17)西脇市野村町 (H22)西脇市高松町	30,342	26,433	▲53.0%
国道 427号	西脇市西田町	7,611	7,104	▲6.7%
国道 427号	多可町中区曽我井	13,003	13,109	0.8%
主要地方道 多可北条線	多可町八千代区仕出原	6,704	7,207	7.5%
主要地方道 西脇八千代市川線	(H17)西脇市合山町 (H22)西脇市平野町	10,643	9,550	▲10.3%
一般県道 西脇口吉川神戸線	西脇市市原町	11,100	10,734	▲3.3%
一般県道山南多可線	多可町中区東安田	3,634	3,603	▲0.9%
一般県道中安田市原線	西脇市羽安町	3,563	3,532	▲0.9%

資料：道路交通センサス

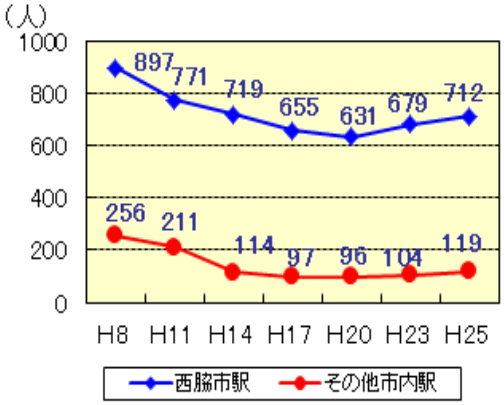
④　公共交通

圏域では鉄道としてＪＲ加古川線が西脇市内を走っており、市内に７駅があります。しかし、運行本数は加古川～西脇市で平日19往復、西脇市～谷川で平日９往復と少なくなっています。市内の駅別の１日平均乗車人員では、平成20（2008）年まで減少傾向でしたが、平成21（2009）年以降若干増加しており、平成20年西脇市駅の 631人が平成25（2013）年では 712人、その他の市内６駅の合計でも、96人が 119人となっています。

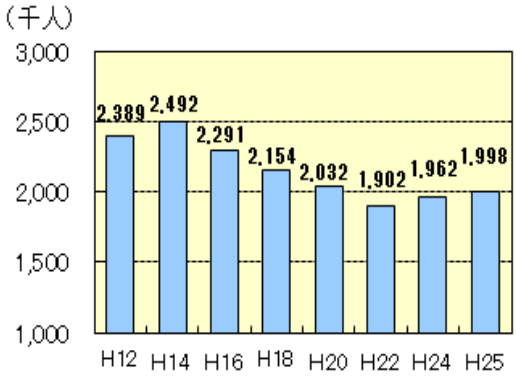
また、路線バスの乗車人員（神姫バス西脇営業所所管路線）も平成22（2010）年まで減少傾向でしたが、平成24（2012）年以降若干増加しています。圏域市町を走るバス路線は、西脇市を拠点に発着しており、多可町を結ぶルートのほか、中国自動車道を経由した大阪方面へのハイウェイバスや神戸方面への急行バスも運行されています。

また、両市町ともに、自治体が運行するコミュニティバスが走っており、西脇市では２路線を、一方、多可町では町内での運行のほか、西脇市への乗り入れ路線も開設しており、あわせて５系統の路線を運行しています。

【 ＪＲ加古川線の駅別１日乗車人員 】



【 神姫バス㈱西脇営業所担当路線乗車人員 】



資料：西脇市統計書

【 圏域市町のバス運行路線・本数（H27） 】

運　行　路　線		平日運行本数
大阪方面（西脇 ～ 大阪駅・新大阪駅・ＵＳＪ）		15 往復
神戸方面（西脇 ～ 三ノ宮駅・神戸空港）		20 往復
三草・社方面（西脇 ～ 社）		4 往復
中・加美方面（西脇市駅 ～ 鍛冶屋・鳥羽上・山寄上）		12 往復
八千代方面（西脇 ～ 大屋）		5 往復
加西方面（大和 ～ アスティアかさい）		4 往復
西脇市 コミュニティバス	西脇線（西脇市駅 ～ 西脇病院）	5 往復
	畑谷線（西脇市駅 ～ 西脇病院～札場）	5 往復
多可町 コミュニティバス	西脇市駅 ～ 牧野北・日赤病院・山口	7 往復
	岩座神 ～ 多可町役場・多可町図書館	4.5 往復
	八千代地域局 ～ 那珂ふれあい館	4.5 往復
	長野 ～ 日赤病院	4 往復
	なごみの里山都 ～ 那珂ふれあい館	4 往復

資料：神姫バス㈱時刻表等により作成

⑤　教育

圏域の高等学校は、いずれも県立で、西脇市に３校、多可町に１校、あわせて４校設置されています。通学者の状況をみてみると、いずれの学校も圏域市町からの通学者が高い割合を占めていますが、実務系の特色ある学科を持つ西脇工業高等学校、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（ＳＰＨ）の指定を受けている西脇高等学校生活情報科は通学範囲が県内全域となっていることから、圏域外から通学する生徒の割合が高くなっています。

小・中学校、幼稚園については、いずれも市・町立となっています。

小学部・中学部・高等部を有する特別支援学校については、県立となっています。

【 圏域市町の高等学校・中学校・小学校・幼稚園の設置状況（H27） 】

市町名	高等学校	中学校	小学校	特別支援学校	幼稚園
西 脇 市	3	4	8	0	8
多 可 町	1	3	7	1	3
合　　計	4	7	15	1	11

資料：学校基本調査表

【 圏域市町の高等学校の通学者区分（H27） 】

学校名	西脇市	多可町	その他	合　計
西脇高等学校	379	194	375	948
西脇工業高等学校	324	129	257	710
西脇北高等学校	95	41	122	258
多可高等学校	133	208	6	347

資料：各校提供資料

⑥　主な公共施設

圏域には、文化・スポーツ関連の施設をはじめ、さまざまな公共施設が整備されています。

【 圏域市町の主な公共施設の状況（H26.3.31）】

施設区分	西脇市	多可町	主な施設等
都市公園	２１	１５	北播磨余暇村公園
児童館	―	2	中児童館、みなみ児童館
隣保館	4	1	
公会堂・市民会館	4	5	アピカホール、ベルディホール
公民館	1	1	
図書館	1	3	
体育館	4	5	
陸上競技場	―	1	
野球場	3	1	黒田庄ふれあいスタジアム
プール	1	3	
保健センター	1	―	
青年の家・自然の家	1	1	
集会施設	１３９	１４５	

資料：公共施設状況調査を参考に作成

≪ その他の特色ある公共施設 ≫

西　脇　市	多　可　町
○郷土資料館 ○にしわき経緯度地球科学館 ○緑風台古窯陶芸館 ○西脇市日本のへそ日時計の丘公園 ○西脇市日本のへそフォルクスガーデン黒田庄 ○北はりま田園空間博物館総合案内所 ○中畑林間ファミリー園 ○住吉農村公園「すみよし桃源郷」 ○旧来住家住宅 ○まちんなか交流館 ○鍛冶屋線市原鉄道記念館 ○北はりま農産物直売所（北はりま旬菜館） ○岡之山美術館 ○黒田庄交流拠点施設あつまっ亭	○なか・やちよの森公園 ○ビジターセンター那珂ふれあい館 ○まちの駅　たか ○鍛冶屋線記念館 ○和紙博物館「寿岳文庫」 ○道の駅「Ｒ４２７かみ」 ○ラベンダーパーク多可 ○ハーモニーパーク ○クラインガルテン岩座神 ○ブライベンオオヤ ○ネイチャーパークかさがた ○マイスター工房八千代 ○フロイデン八千代 ○エーデルささゆり ○エアレーベン八千代 ○なごみの里山都 ○ブルーメンやまと

資料：市町ホームページ等を参考に作成

⑦　住民活動

圏域における住民自らの主体的な活動組織として、社会福祉協議会への登録ボランティアが西脇市では42団体、多可町では74団体あります。また、多様な社会貢献活動を行うＮＰＯ法人の設立数は、西脇市では13法人、多可町では12法人あります。

【 圏域市町の市民活動グループの状況（Ｈ26） 】

区　　分	西脇市	多可町	合計
社会福祉協議会登録ボランティア数	４２	７４	１１６
ＮＰＯ法人設立数	１３	１２	２５

資料：県ホームページ等を参考に作成

３　第１次（平成 23～27 年度）ビジョンの評価・検証

第２次北はりま定住自立圏共生ビジョンを策定するに当たり、第１次で掲げた49の事業について検証しました。それぞれの事業の実施状況及び効果については、下記のとおりです。

Ａ…効果が十分に得られた事業　【35事業】
Ｂ…効果は得られたものの取組内容等に見直しが必要な事業　【９事業】
Ｃ…効果がなかった事業（実績なしを含む。）　【２事業】
Ｄ…計画期間中に未実施の事業　【３事業】

掲載事業名（掲載ページ）	A	B	C	D	第１次期間中の主な取組内容	第２次への考え方
医療機能強化事業（P31）	○				・西脇病院脳卒中センターの設置 ・西脇病院ＭＲＩ棟増設 ・認知症疾患医療センター開設	継続実施
医療従事者確保対策事業（P32）	○				・西脇病院院内保育所の開設運営 ・多可赤十字病院への医師対策等助成金の交付	継続実施
地域医療施設整備事業（P32）			○		・診療所新規設置助成【多可】	継続実施
休日急患センター運営事業（P33）	○				・西脇病院内での設置運営	継続実施
圏域医療連携体制推進事業（P34）				○	・健康づくり推進協議会で代替運用	削除（広域実施）
病診連携推進事業（P35）	○				・西脇病院の地域医療支援病院の運用	継続実施
病病連携推進事業（P35）	○				・地域医療連携システムの整備運用 ・西脇病院から多可赤十字病院への皮膚科医・透析指導医派遣	継続実施
へき地医療拠点病院事業（P36）	○				・西脇病院から多可町立診療所への代診医派遣	継続実施
地域医療普及啓発事業（P37）	○				・西脇病院フェスタの開催 ・多可赤十字病院フェスタの開催	削除（広域実施）
地域医療体制推進事業（P38）	○				・地域医療フォーラムの開催	削除（広域実施）
地域医療を守る住民活動の支援（P38）	○				・西脇小児医療を守る会などの住民活動への支援 ・多可町への住民活動団体の周知・呼びかけ	継続実施
介護認定審査会事業（P39）	○				・一部事務組合事業の実施	継続実施
障害認定審査会事業（P40）	○				・一部事務組合事業の実施	継続実施
文化・スポーツ施設相互利活用推進事業（P41）		○			・両市町連絡会の設置運営	削除（広域実施）
文化・スポーツイベント交流事業（P42）		○			・西脇多可新人駅伝大会の実施 ・両市町連絡会の設置運営	継続実施

掲載事業名（掲載ページ）	A	B	C	D	第１次期間中の 主な取組内容	第２次への 考え方
図書館相互利用推進事業 （P43）	○				・図書館図書等の相互利用 ・相互返却	削除 （広域実施）
文化財企画展開催事業 （P44）	○				・共同企画展「西脇・多可の鬼と天狗」の開催	継続実施
文化財保存活用研究事業 （P45）		○			・両市町指定文化財のＨＰ公開	継続実施
地域ブランド普及開発推進事業（P47）	○				・県畜産共進会・産業展の開催 ・地元農産物を活用した特産品の開発・ＰＲ・販売	継続実施
担い手育成対策事業（P47）	○				・研修会の共同開催 ・担い手サミットへの参加	継続実施
農産物直売所運営事業 （P48）	○				・農産物直売所の運営 ・指定管理者の法人化 ・生産拡大、出荷促進	継続実施
北播磨地場産業開発機構支援事業（P49）	○				・補助金の助成・事業支援 ・海外展開事業の支援	削除 （広域実施）
有害鳥獣被害防止対策事業 （P51）	○				・防護柵の設置 ・猟友会との連携による捕獲の実施	削除 （広域実施）
食肉処理加工施設整備運営事業（P51）	○				・食肉処理加工施設の運営 ・捕獲シカの搬入	継続実施
捕獲鳥獣有効活用事業 （P52）	○				・シカ肉の商品開発・ＰＲ・販売 ・農産物直売所での販売	継続実施
広域消防本部整備運営事業 （P53）	○				・一部事務組合事業の実施 ・本部指令センター・無線デジタル化の運用	削除 （広域実施）
消防・防災危機管理体制の整備検討（P54）	○				・消防サイレンの吹鳴・情報伝達体制の検討	継続実施
水位監視対策事業（P55）	○				・河川監視用カメラの増設要望	継続実施
ごみ処理事業（P56）	○				・一部事務組合事業の実施	継続実施
広域斎場増設整備事業 （P57）	○				・葬祭場増設施設供用開始	継続実施
広域斎場管理運営事業（P58）	○				・一部事務組合事業の実施	継続実施
圏域内運行バス調査研究事業（P60）		○			・両市町と事業者での調整会開催 ・アンケート実施	削除 （広域実施）
コミュニティバス運行事業 （P60）	○				・両市町でのコミバス運行 ・コミバスの運行調整	継続実施
地方バス等公共交通維持確保対策事業（P61）	○				・路線バス事業者への助成	継続実施
国道427号整備促進事業 （P62）	○				・要望活動 ・西脇道路都市計画変更手続き及び事業化	継続実施
一般県道中安田市原線バイパス整備促進事業（P63）	○				・要望活動 ・市道に認定【西脇】	削除
学校給食地産地消推進事業 （P64）				○	・供給体制等の調整	継続実施
北はりま田園空間博物館事業（P66）	○				・補助金の助成・事業支援 ・空調設備取替・駐車場整備	継続実施
北はりまハイランド構想推進事業（P66）		○			・ホームページ更新による情報発信強化	継続実施

掲載事業名（掲載ページ）	A	B	C	D	第１次期間中の 主な取組内容	第２次への 考え方
圏域観光交流連携推進事業（P67）		○			・北播磨広域観光協議会を通じた観光情報の発信	削除 （広域実施）
アンテナショップ運営事業（P67）		○			・店舗運営、共同情報発信	継続実施
空き家等情報バンク制度の構築・推進（P68）			○		・空き家バンクの運営【多可】 ・バンク制度の連携等調査【西脇】	削除
市民農園運営事業（P68）		○			・市民農園の運営状況の整理・把握、情報発信	継続実施
結婚活動促進事業（P69）		○			・婚活イベント開催・支援	継続実施
木質バイオマスエネルギー利用促進事業（P70）	○				・既存公共施設への導入・普及促進の調査・検討 ・民間施設への導入・普及促進	継続実施
再生可能エネルギー導入推進事業（P71）	○				・住宅用太陽光発電設置助成【西脇】 ・公共施設への導入【西脇】 ・小水力発電の実証調査【多可】	継続実施
消費生活・多重債務相談窓口の相互利用の推進（P72）	○				・窓口の相互利用開始	継続実施
住民相談窓口の相互利用・共同設置の検討（P73）				○	・相談体制拡充に向けた検討	削除 （広域実施）
職員人材育成・確保事業（P74）	○				・セミナー共催実施 ・研修会共催実施	継続実施
計	35	9	2	3		

第１次北はりま定住自立圏共生ビジョンに基づき、政策分野別の事業を取り組みました。特に医療分野の事業によって生活機能の強化が図られ、公共交通分野の事業により住民の利便性が向上するなど、定住自立圏の形成に一定の成果が認められました。

また、加西市・加東市を中心市とする北播磨広域定住自立圏域の形成により、広域による効果的な展開ができる事業については、広域での取組に切り替えていきます。